

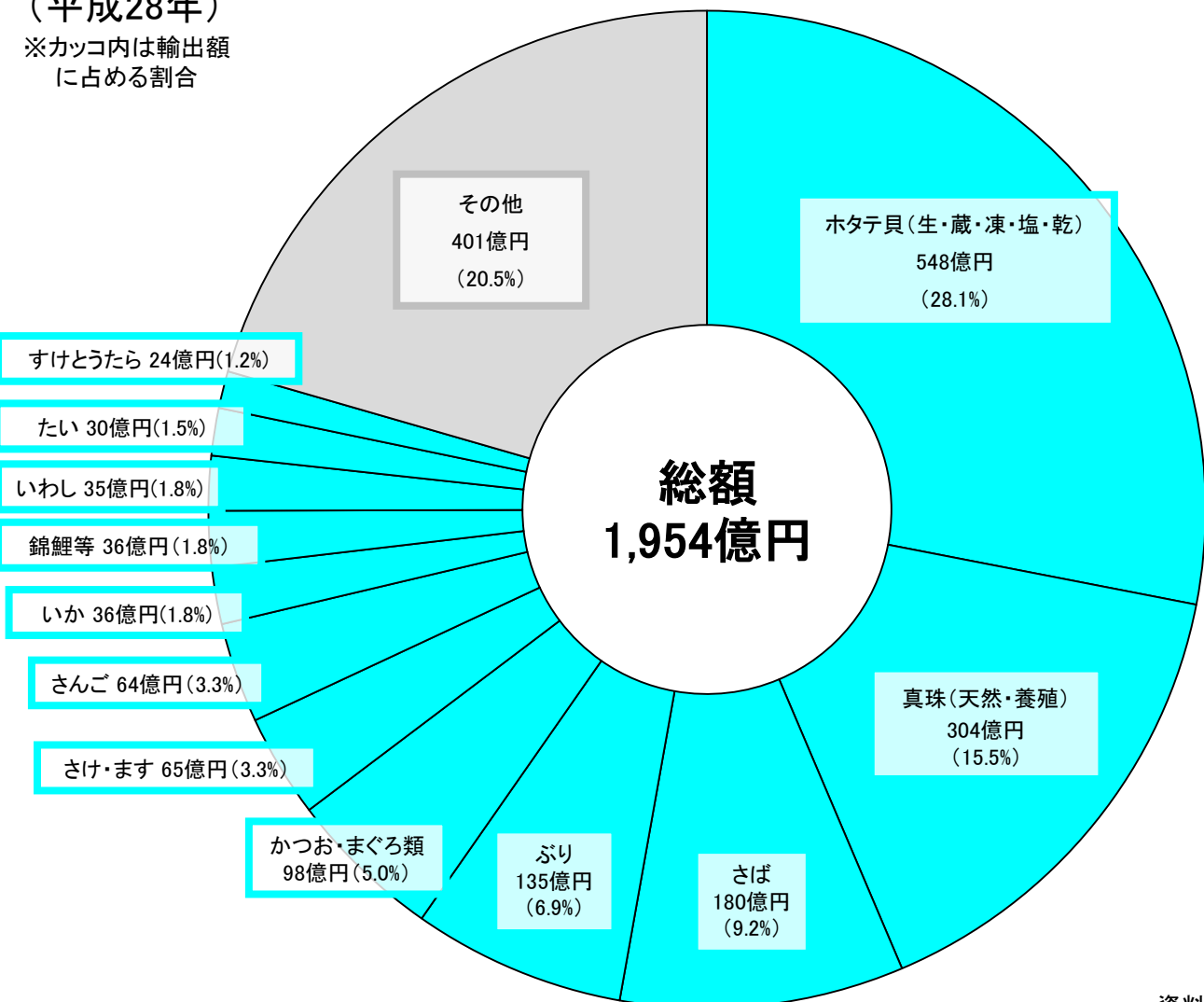
水産物(水産調製品以外)の内訳

●水産物(水産調製品以外)の品目別内訳をみると、ホタテ貝、真珠(天然・養殖)、さば、ぶりなどの割合が多い。

(平成28年)

※カッコ内は輸出額
に占める割合

(単位:億円)



品目名	平成27年	平成28年	増減率
ホタテ貝(生鮮・冷蔵・冷凍・塩蔵・乾燥)	590.8	548.3	▲7.2%
真珠(天然・養殖)	319.0	303.8	▲4.8%
さば	179.0	179.9	0.5%
ぶり	138.4	134.7	▲2.6%
かつお・まぐろ類	137.8	97.9	▲28.9%
さけ・ます	72.1	65.4	▲9.4%
さんご	73.8	63.6	▲13.9%
いか	32.0	35.8	11.8%
錦鯉等	37.3	35.6	▲4.5%
いわし	31.8	34.6	8.7%
たい	22.8	30.1	32.1%
すけとうたら	33.2	23.5	▲29.2%
その他	395.1	401.3	1.6%
水産物(水産調製品以外)計	2063.1	1954.4	▲5.3%

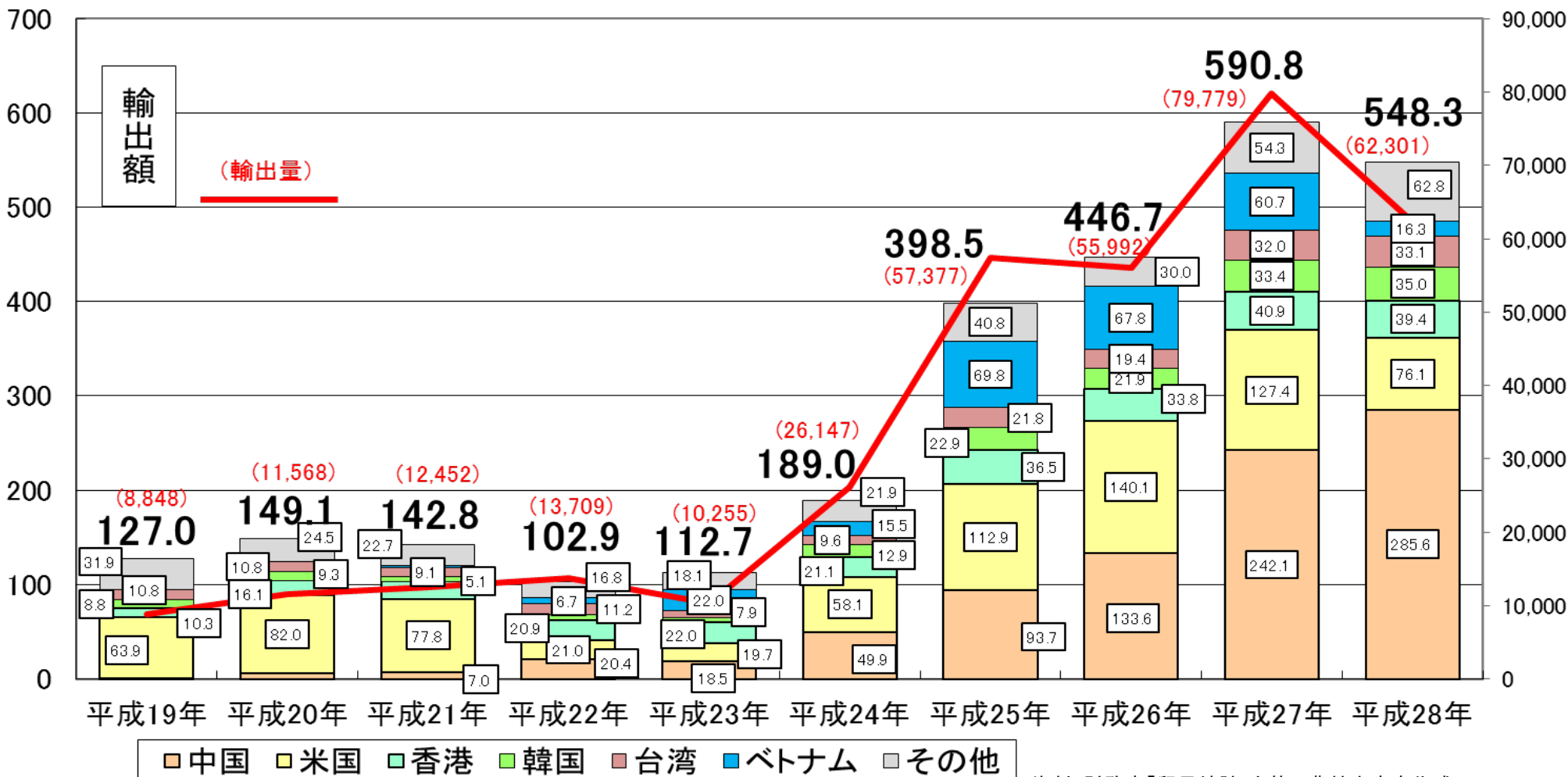
資料:財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

ホタテ貝(生鮮・冷蔵・冷凍・塩蔵・乾燥)の輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

- ホタテ貝は、我が国の主力輸出品。
- 近年、平成27年まで、輸出が顕著に増加したが、平成28年は水揚量の減少等により減少。中国、米国向けで全体の約6割を占める。

(輸出額:億円)

(輸出量:トン)



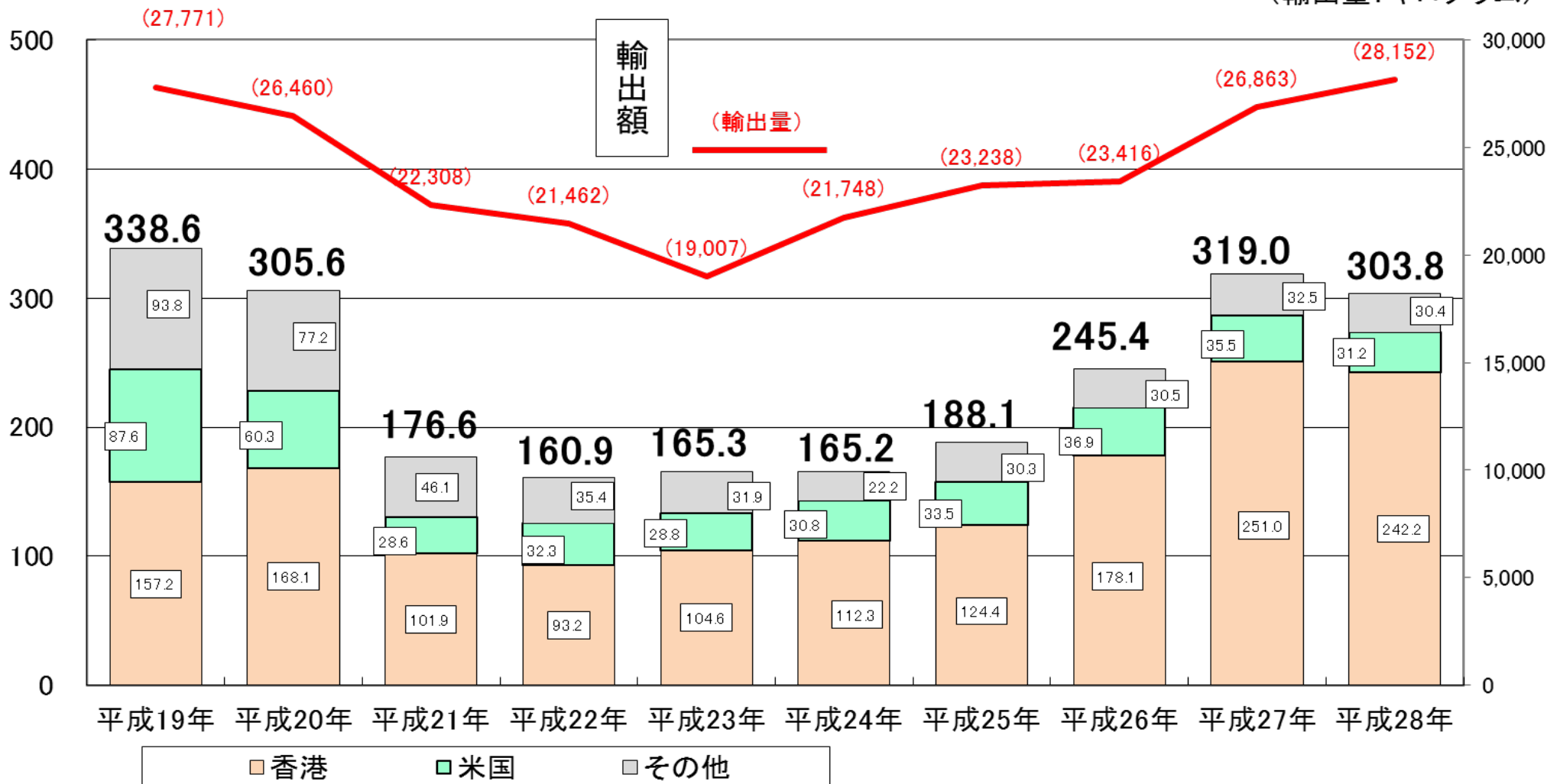
資料:財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

真珠(天然・養殖)の輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

- 真珠は、主に香港向けの輸出が大半を占め、輸出額は近年平成27年まで増加してきたが、平成28年は円高の影響等により減少。

(輸出額: 億円)

(輸出量: キログラム)

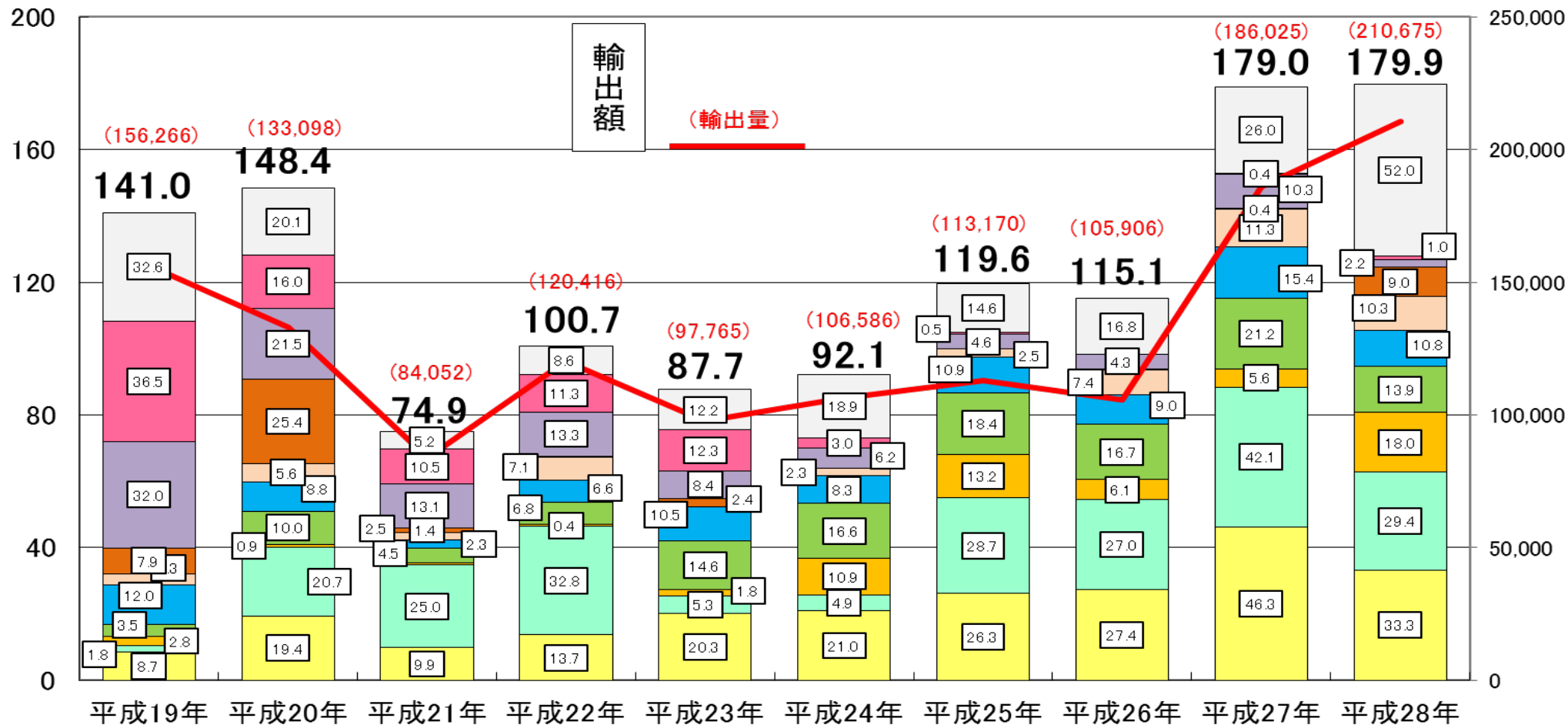


さばの輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

- さばは、缶詰原料等の加工用を中心にタイ、ベトナム、フィリピンなど東南アジア向けその他、エジプトやガーナなどアフリカ向けにも輸出されている。

(輸出額: 億円)

(輸出量: トン)



■ タイ ■ エジプト ■ ガーナ ■ ベトナム ■ フィリピン ■ インドネシア ■ ナイジェリア ■ 中国 ■ 韓国 ■ その他

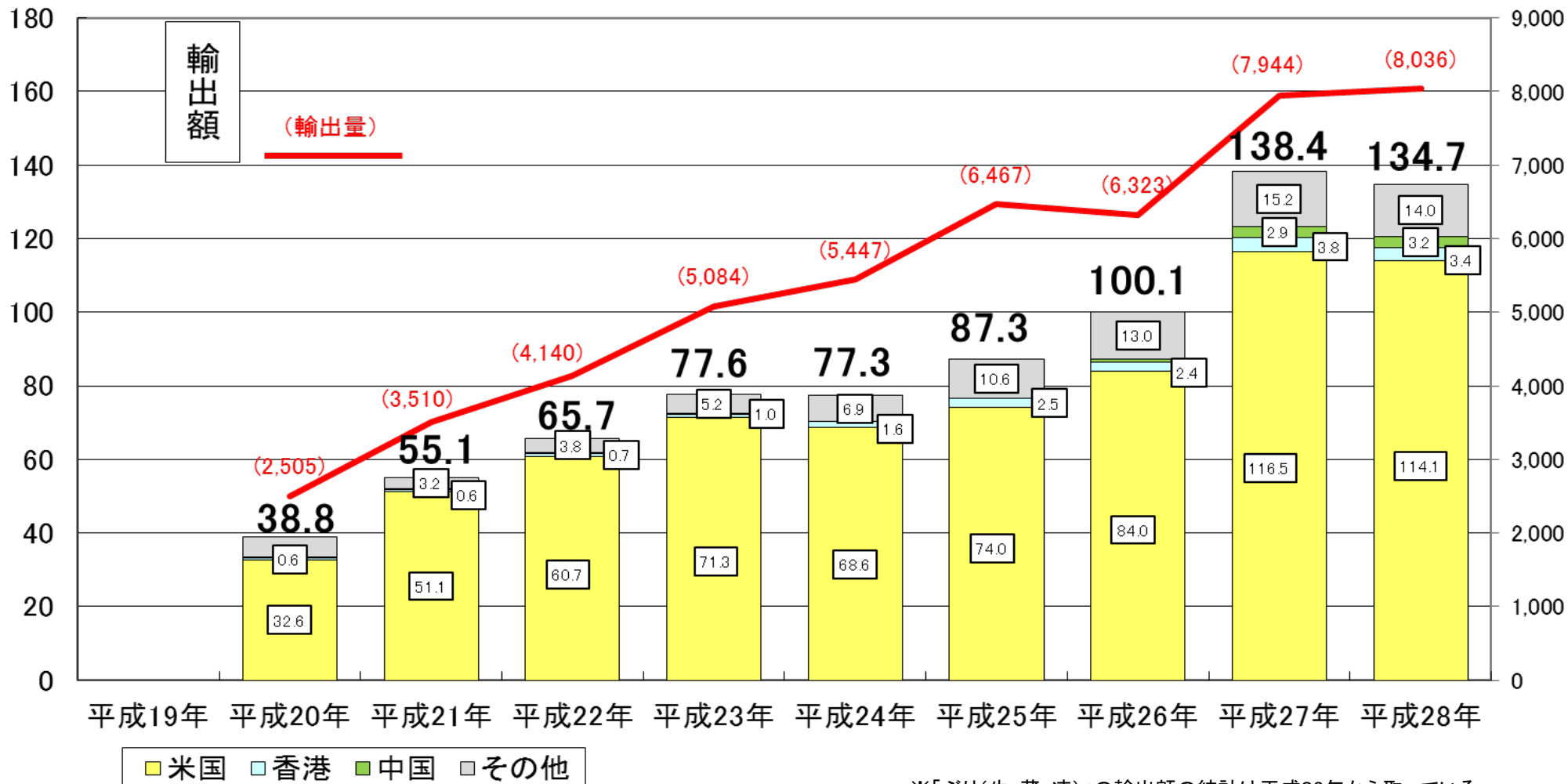
※輸出額は、平成22年までは冷蔵及び冷凍品の計。平成23年からは生鮮、冷蔵及び冷凍品の計
資料: 財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

ぶりの輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

● ぶりの輸出額は、米国向けが中心に、平成27年まで順調に増加したが、平成28年は在庫調整等により減少。

(輸出額: 億円)

(輸出量: トン)



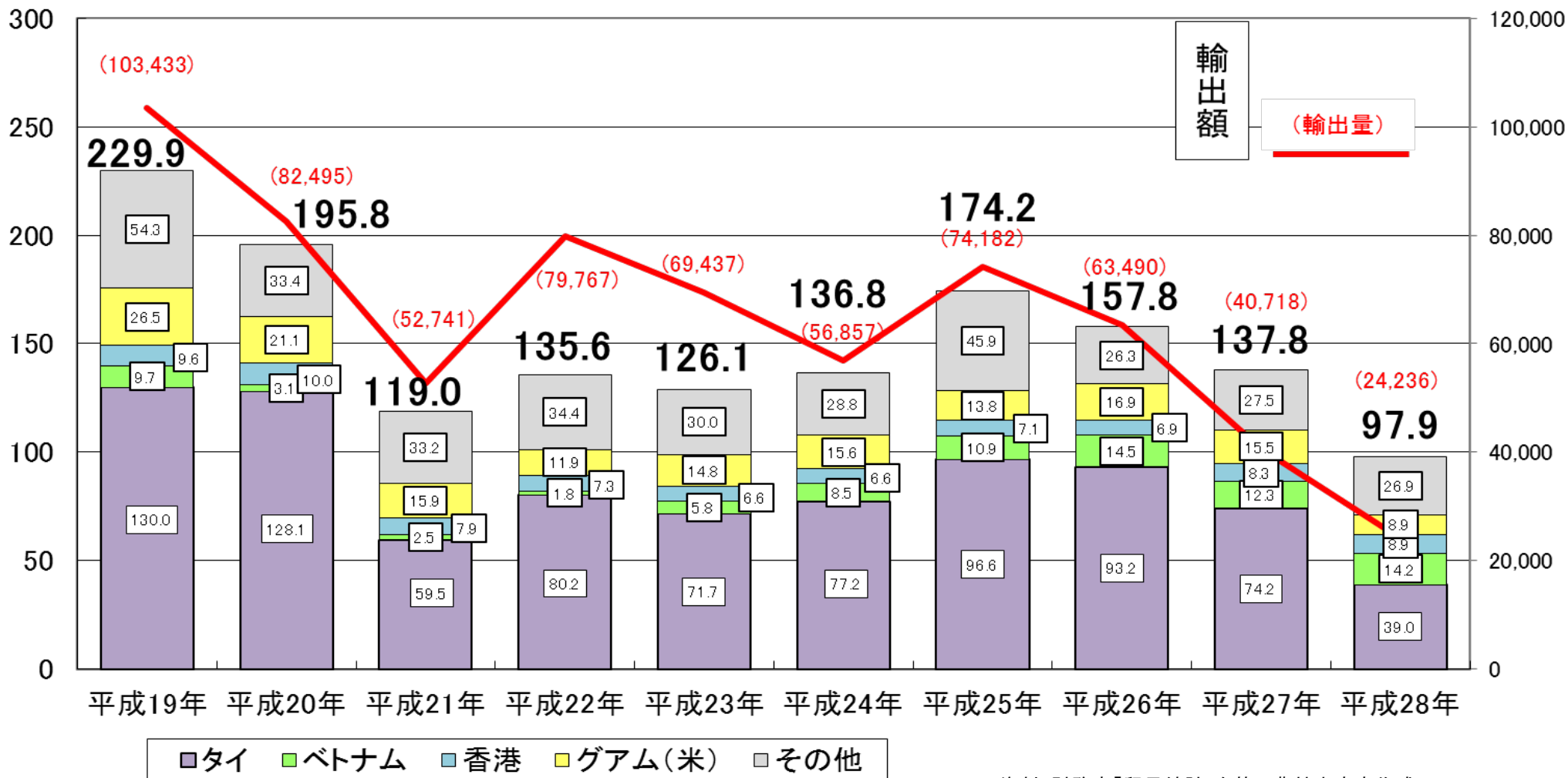
※「ぶり(生・蔵・凍)」の輸出額の統計は平成20年から取っている
資料: 財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

かつお・まぐろ類の輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

● かつお・まぐろ類は、近年、水揚量の減少や日本国内向け需要の逼迫により、輸出は減少。

(輸出額: 億円)

(輸出量: トン)



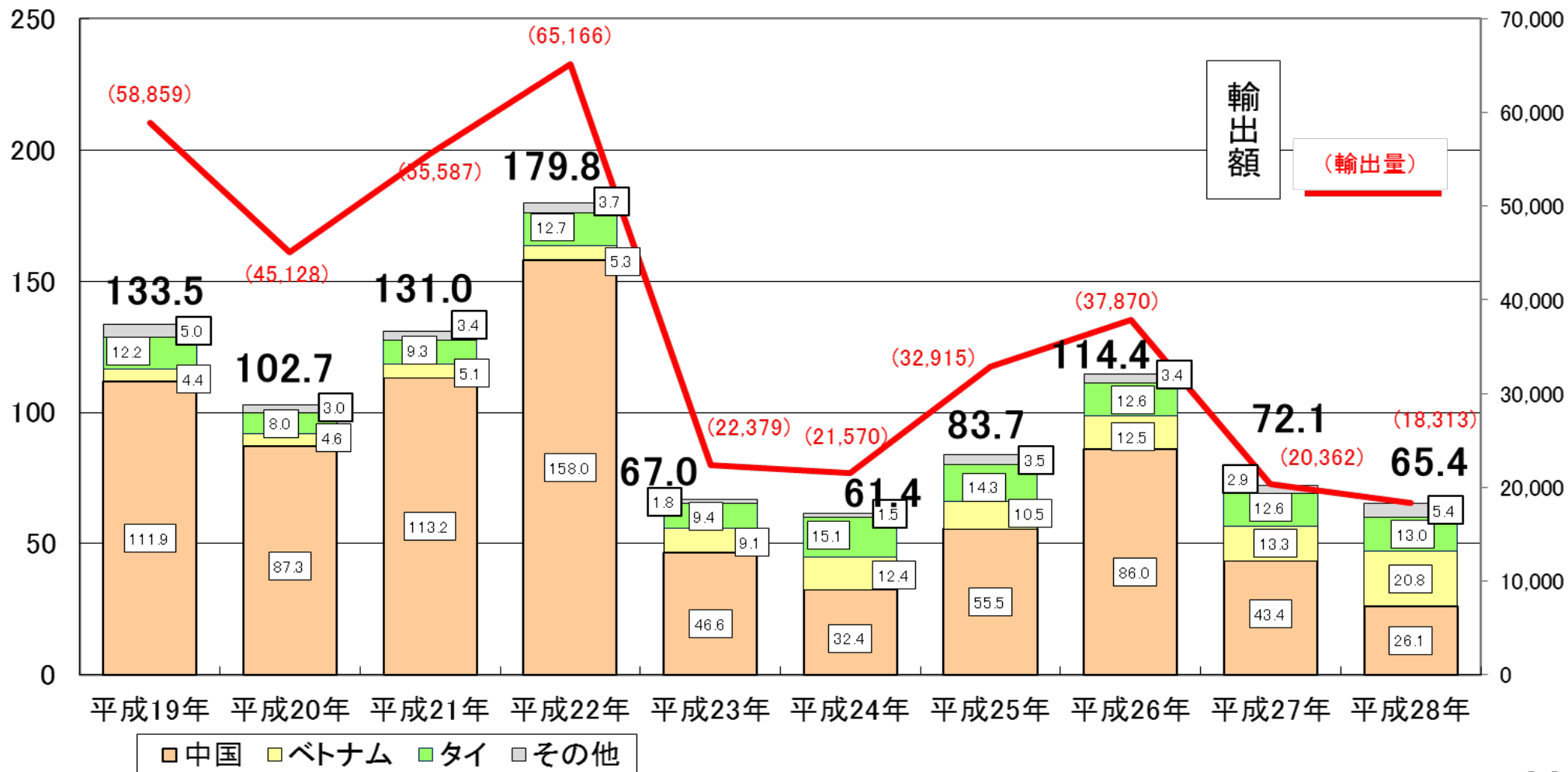
資料: 財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

さけ・ますの輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

● さけ・ますは、中国、ベトナム、タイ向けが大半。輸出額は漁獲動向等の影響を受けて、大きく増減。

(輸出額: 億円)

(輸出量: トン)



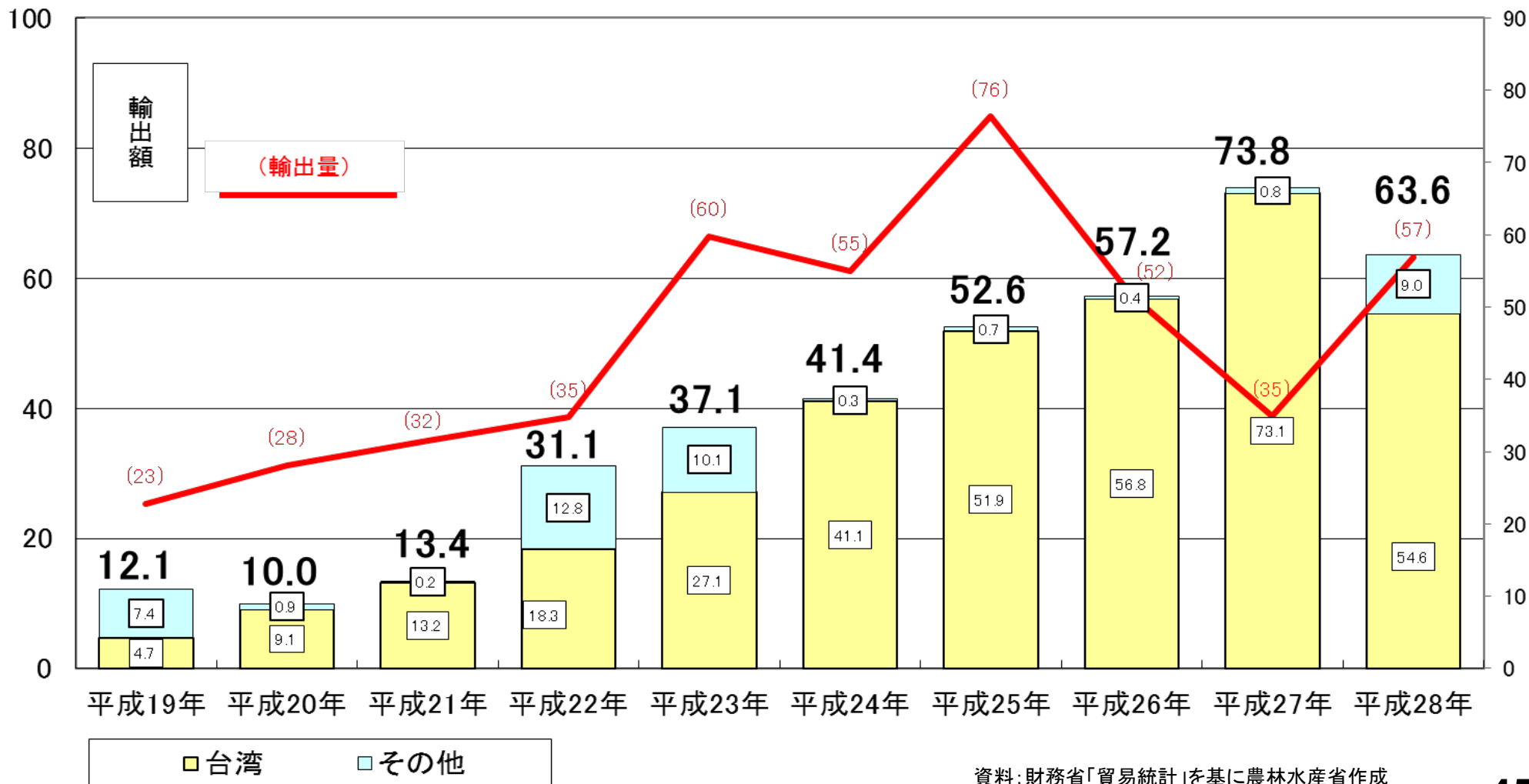
資料: 財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

さんごの輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

● さんごは、台湾向けが大半。

(輸出額: 億円)

(輸出量: トン)



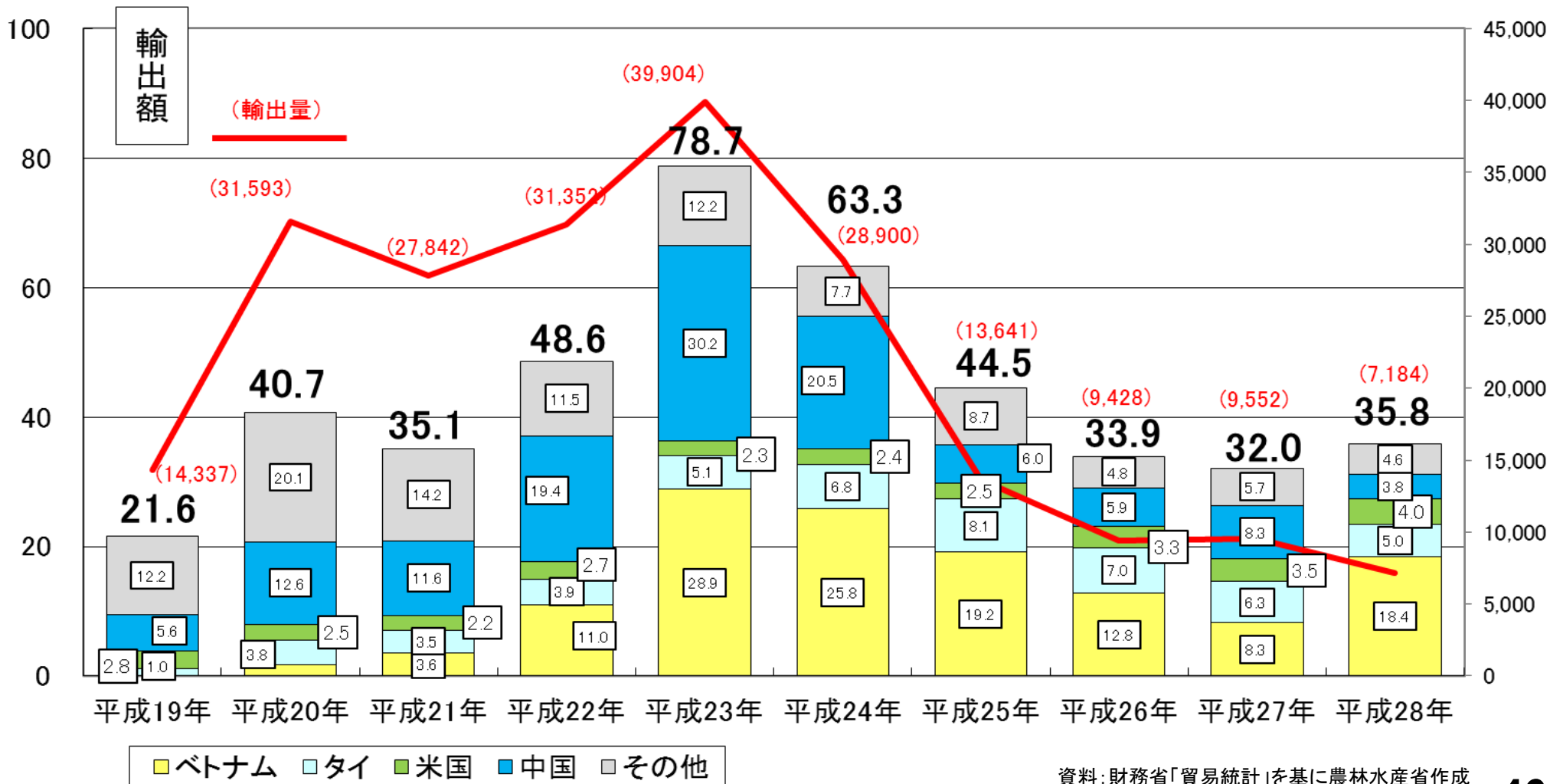
資料: 財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

いかの輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

- いかの輸出額は近年減少傾向。
- 主に加工原料用としてベトナム、中国、タイ向けに輸出。

(輸出額: 億円)

(輸出量: トン)



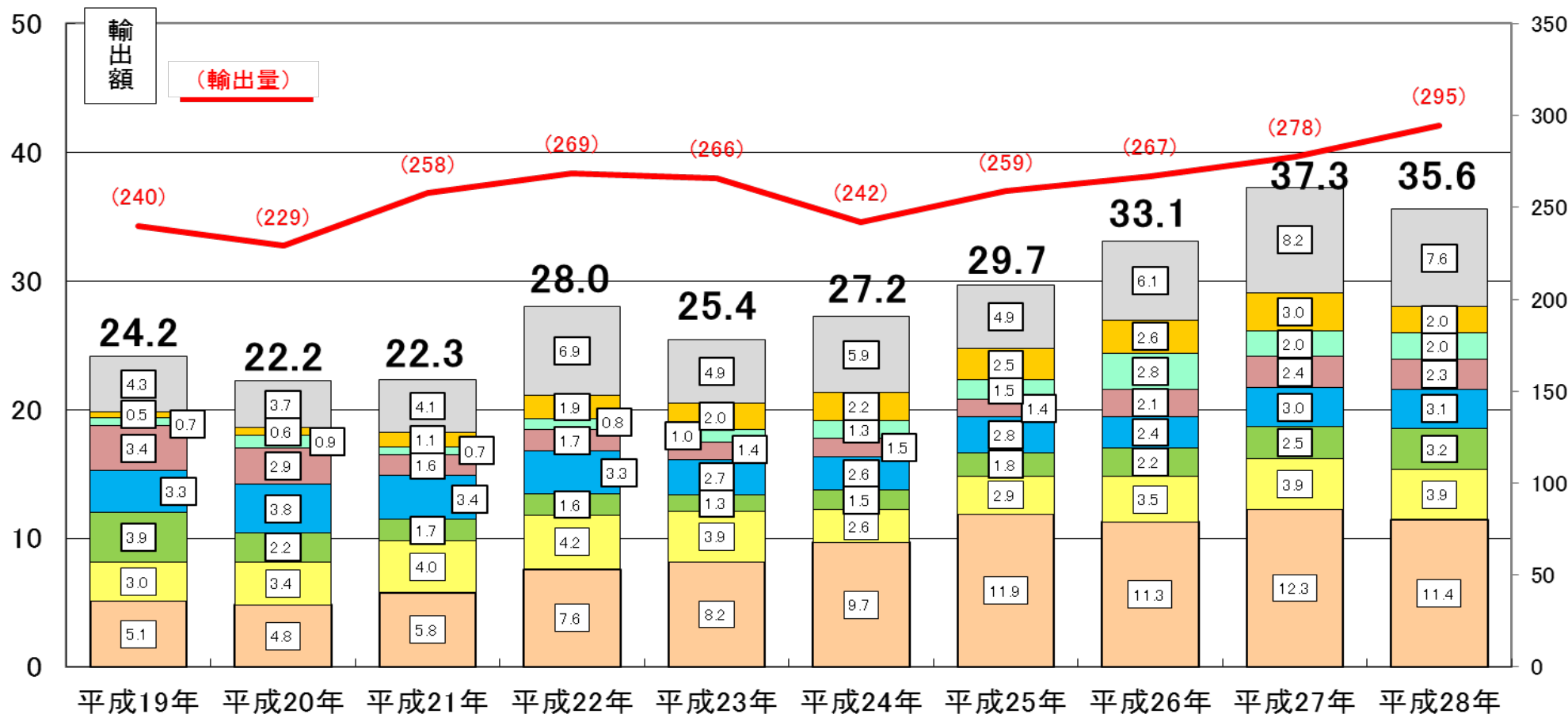
資料: 財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

錦鯉等観賞用魚の輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

- 錦鯉等の鑑賞用魚は、欧米やアジアの富裕層を中心に増加傾向。
- 盆栽と並んで、日本文化の象徴として楽しまれている。

(輸出額: 億円)

(輸出量: トン)



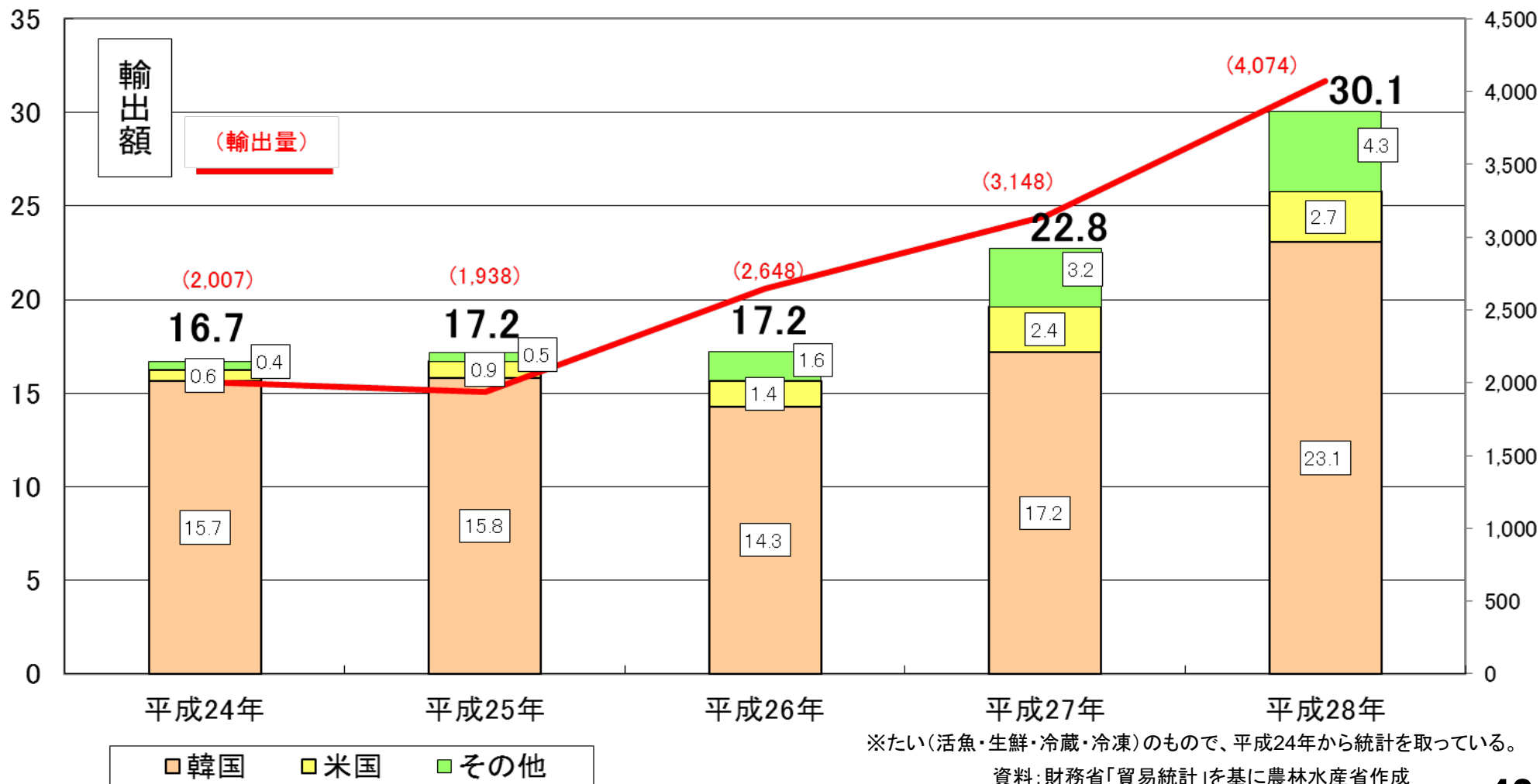
■ 香港
 ■ オランダ
 ■ 米国
 ■ ドイツ
 ■ 英国
 ■ タイ
 ■ インドネシア
 ■ その他

たいの輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

● たいの輸出は、韓国向けが大半。

(輸出額: 億円)

(輸出量: トン)



※たい(活魚・生鮮・冷蔵・冷凍)のもので、平成24年から統計を取っている。

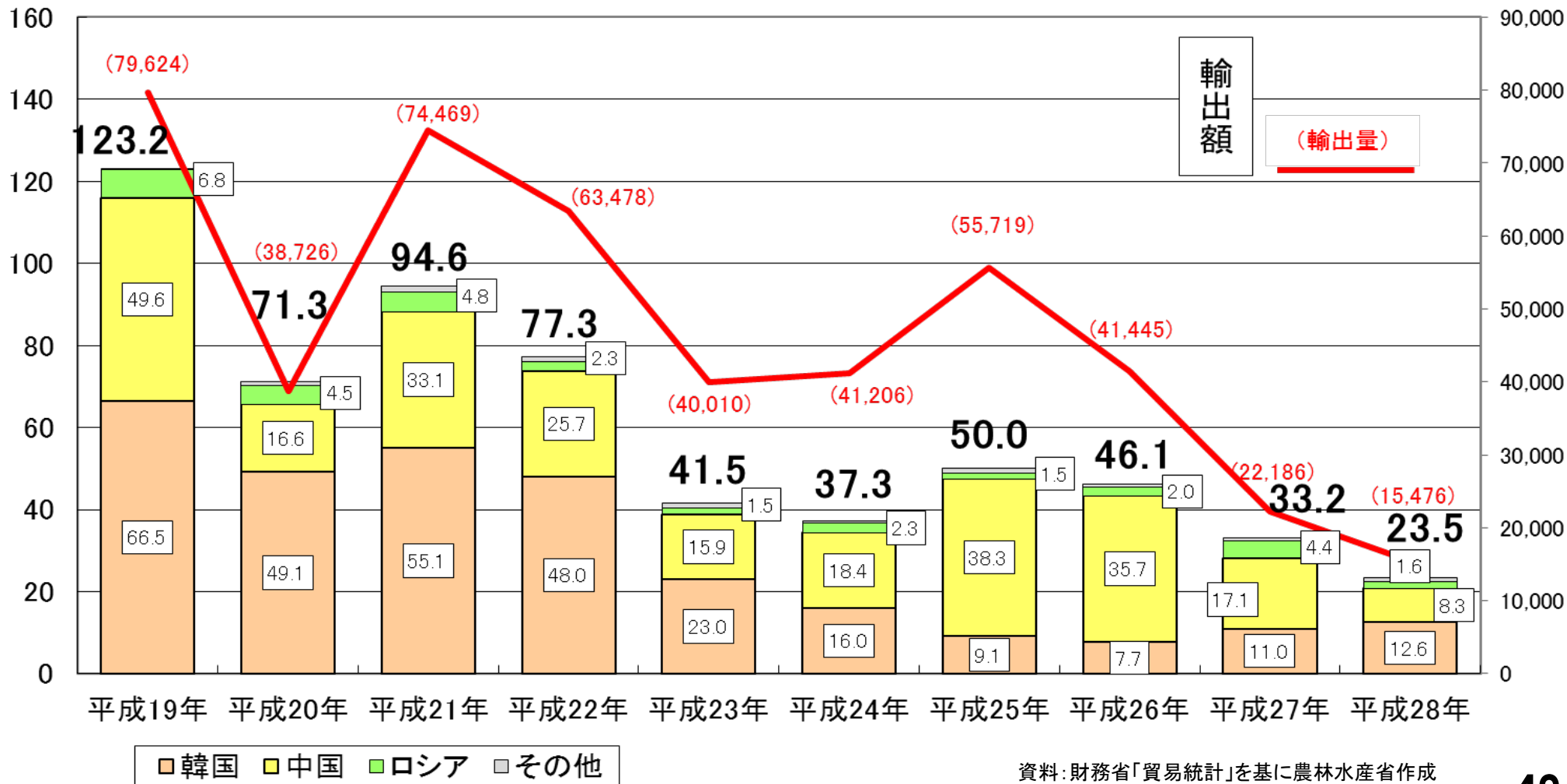
資料: 財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

すけとうたらの輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

● すけとうたらの輸出は、韓国、中国向けが大半。東日本大震災等の影響により、輸出額が大きく減少。

(輸出額: 億円)

(輸出量: トン)



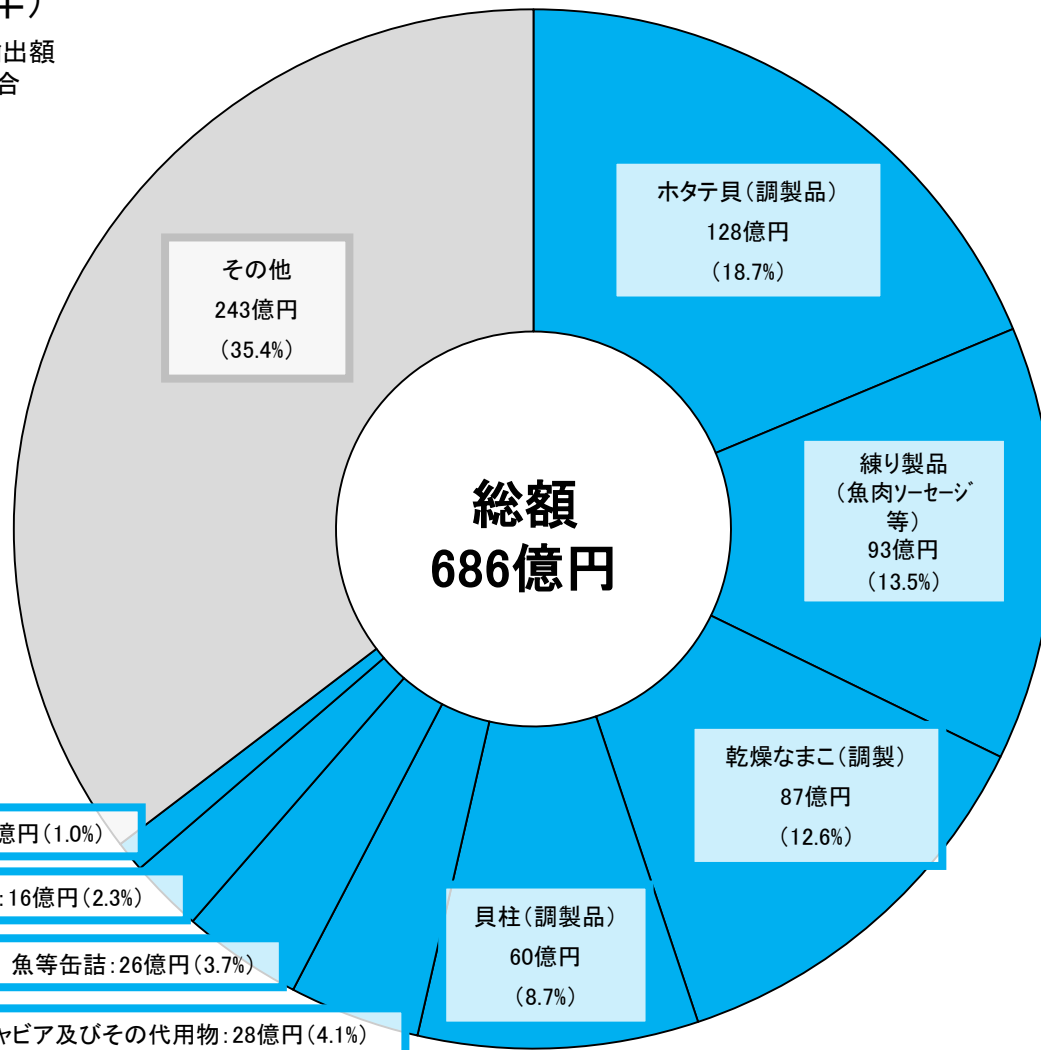
水産調製品の内訳

●水産調製品の品目別内訳をみると、貝柱、乾燥なまこ、練り製品などの割合が多い。

(平成28年)

※カッコ内は輸出額
に占める割合

(単位:億円)



品目名	平成27年	平成28年	増減率
ホタテ貝 (調製品)	157.8	128.4	▲18.7%
練り製品 (魚肉ソーセージ等)	81.7	92.7	▲13.5%
乾燥なまこ (調製)	103.1	86.8	▲15.8%
貝柱 (調製品)	19.4	59.8	▲208.3%
キャビア及びその代用物	27.0	27.9	▲3.4%
魚等缶詰	18.6	25.6	▲37.3%
あわび (調製)	24.1	15.7	▲34.8%
かに調製品	6.6	6.5	▲0.6%
その他	255.1	242.6	▲4.9%
水産調製品	693.5	686.1	▲1.1%

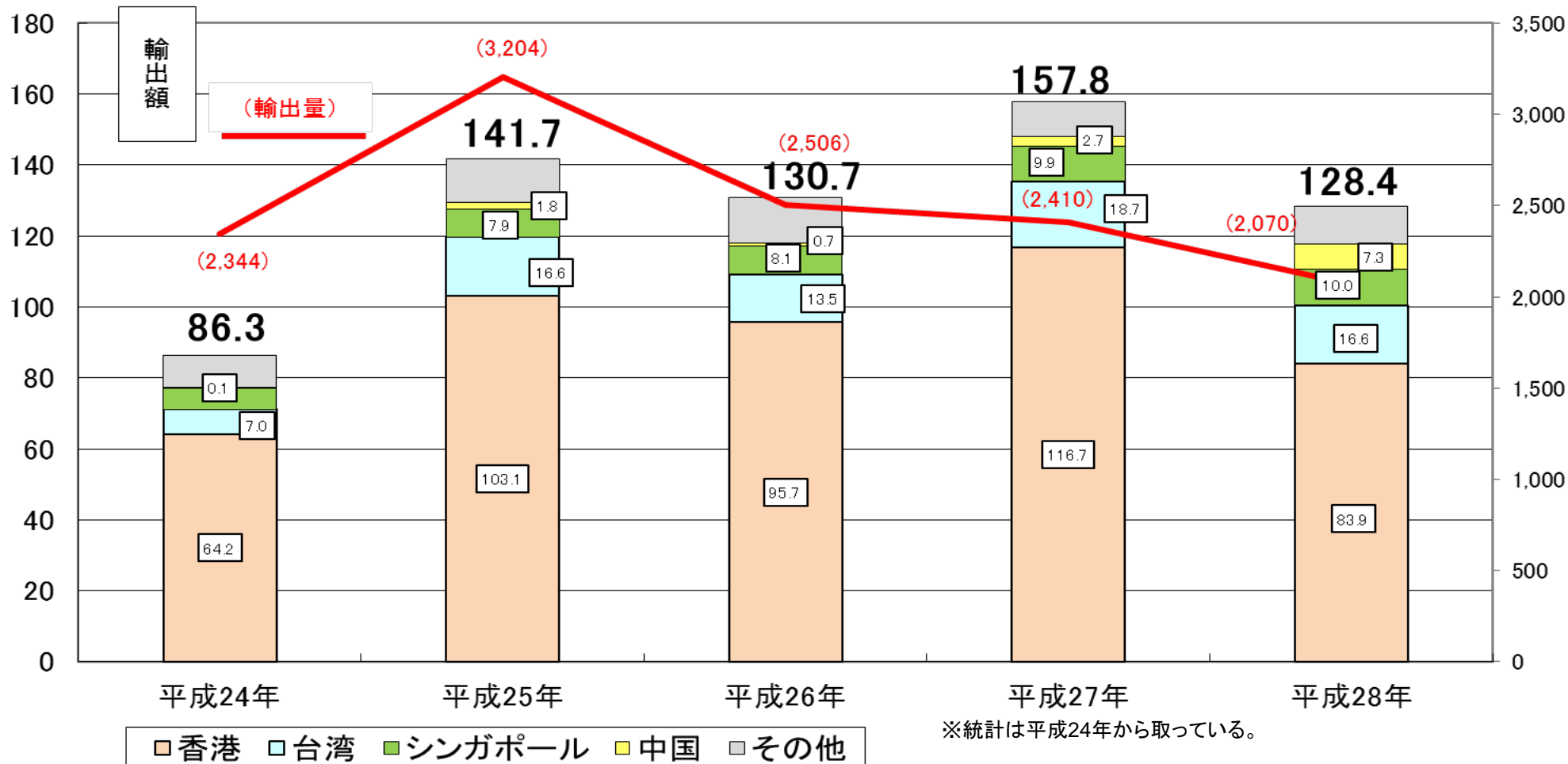
※貝柱 (調製品) は、主にホタテ貝、いたや貝、い貝、巻貝以外の貝柱のもの

ホタテ貝(調製品)の輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

- ホタテ貝の干し貝柱が中心であるとみられ、中華料理の食材として使われているが、平成28年はホタテ貝の水揚量の減少等の影響を受けて減少。
- ほとんどが香港や台湾に輸出されている。

(輸出額:億円)

(輸出量:トン)

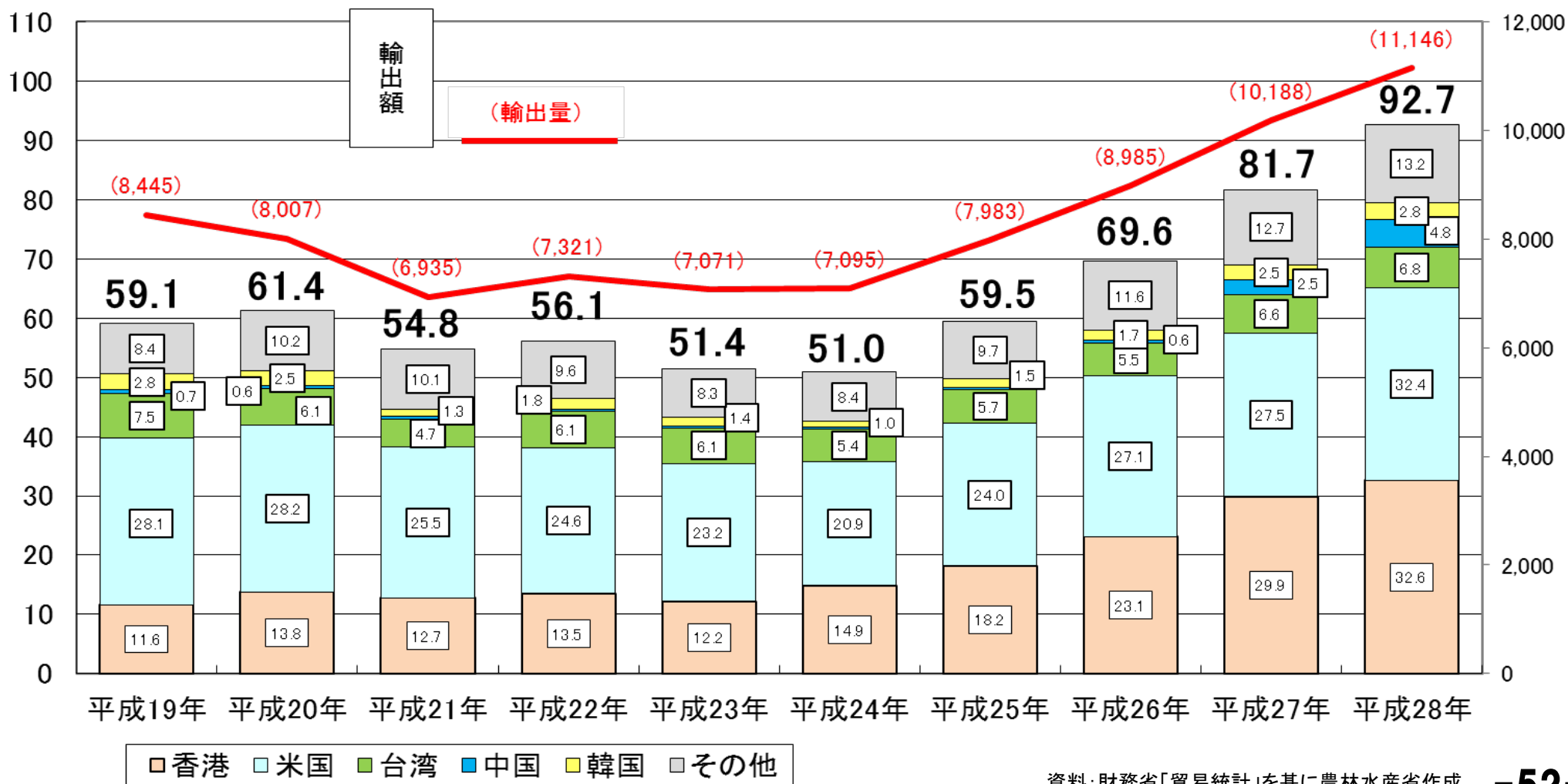


練り製品(魚肉ソーセージ等)の輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

● 香港、米国、台湾向けが全体の約8割を占めており、近年は増加傾向。

(輸出額:億円)

(輸出量:トン)



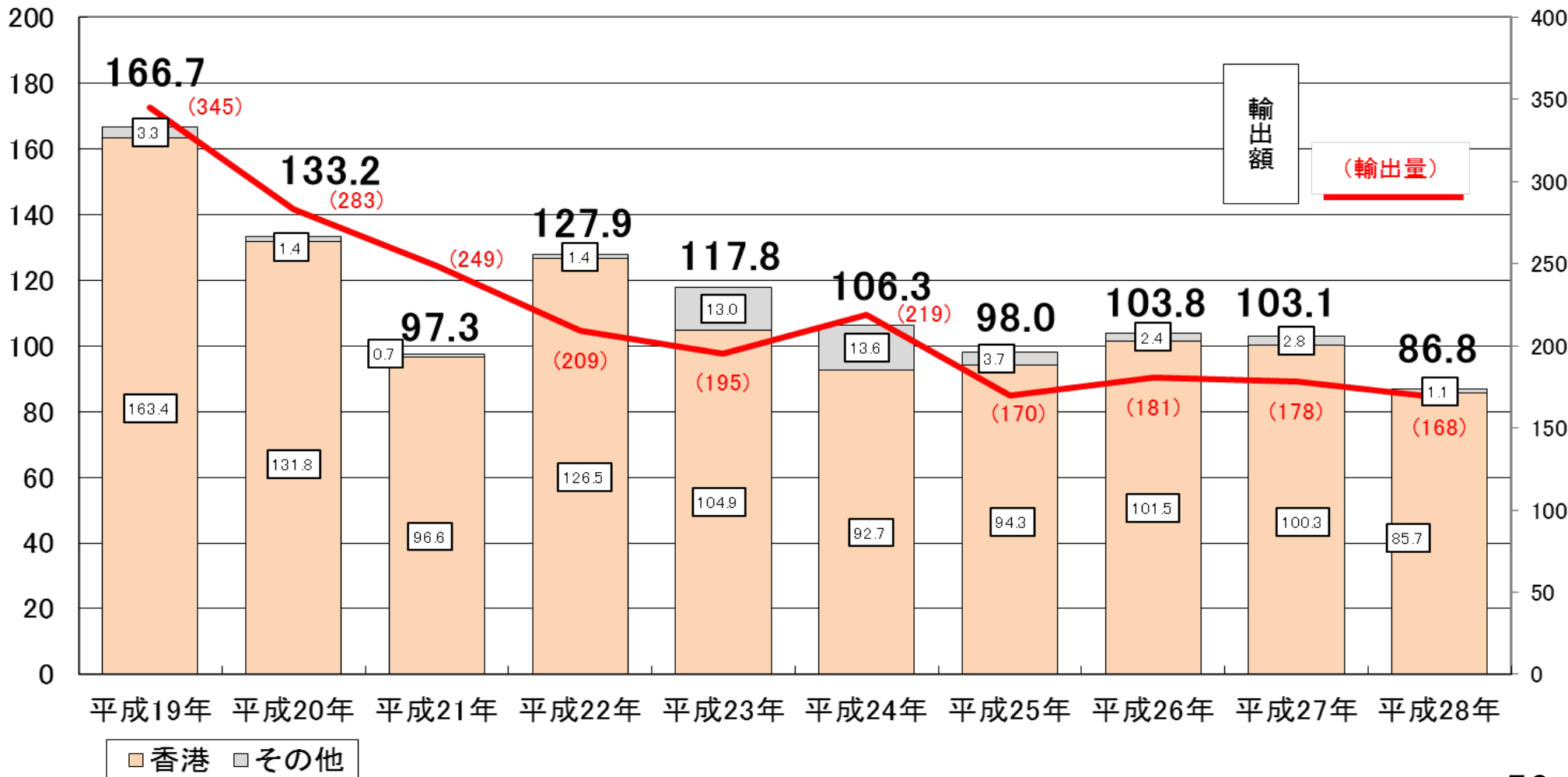
資料:財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

乾燥なまこ(調製)の輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

- 乾燥なまこは、「黒いダイヤ」と称され、高級食材として人気。
- ほとんどが香港に輸出されているが、近年は減少傾向。

(輸出額:億円)

(輸出量:トン)

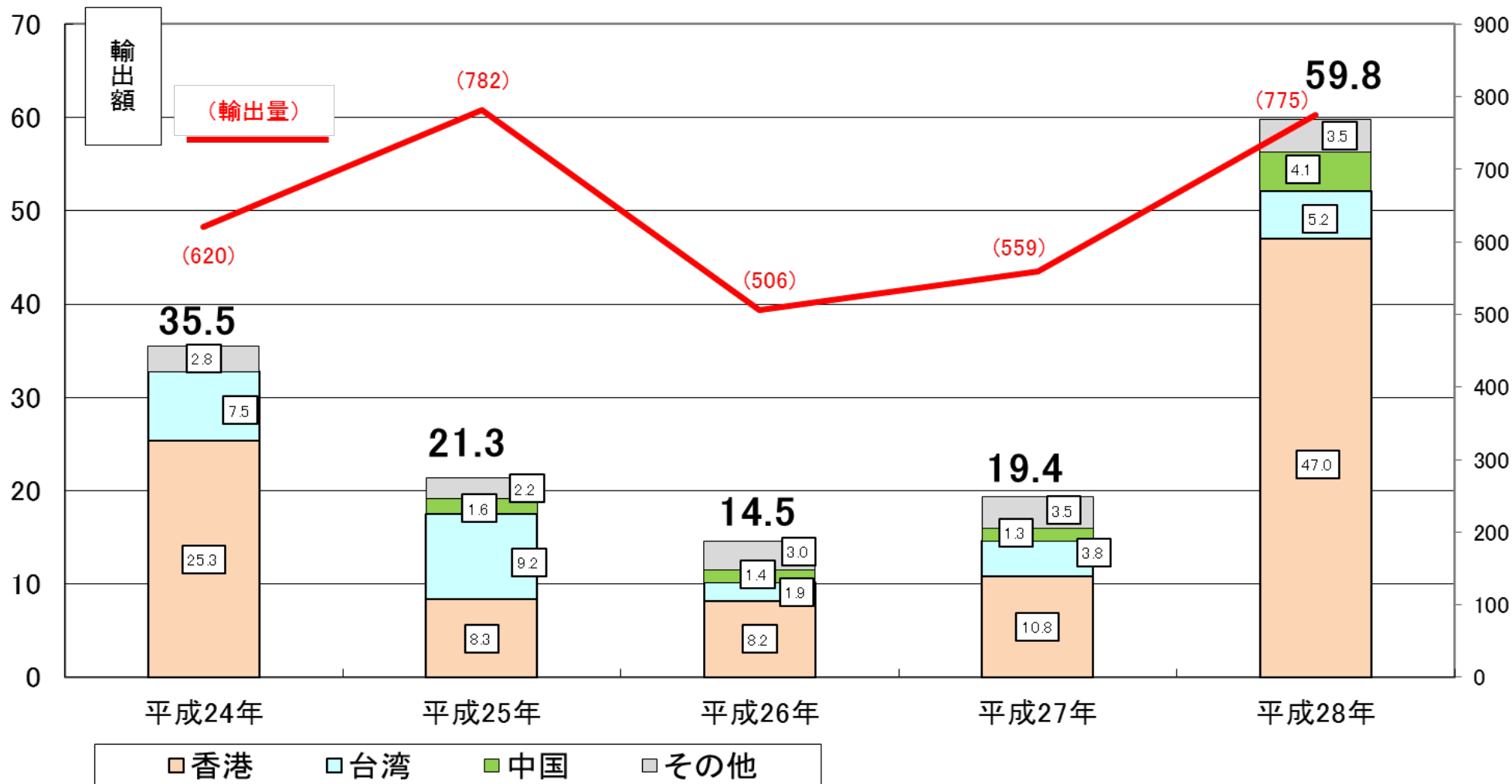


貝柱(調製品)の輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

- ホタテ貝の水揚量の減少等により、その他の貝類を含めて貝柱全体の価格高騰なるも、香港や台湾からの一定の需要が維持され、輸出額が増加。

(輸出額: 億円)

(輸出量: トン)



あわび(調製)の輸出額・輸出量及び輸出先国の推移

- 高級中華料理の食材として人気のあわび(調製)は、ほとんどが香港に輸出されている。

(輸出額: 億円)

(輸出量: トン)

